

米政策金利は3会合連続で据え置き ～市場では2024年3月にも利下げ開始との観測が強まる～

政策金利は3会合連続で据え置き

米FRB(連邦準備制度理事会)が12月12日～13日に開催したFOMC(連邦公開市場委員会)では、市場予想どおり、政策金利(FFレートの誘導目標)が5.25～5.50%で据え置かれました。また、会合参加者の予想(中央値)として、2024年に0.75ポイントの利下げを想定していることが示されました。

FRBのパウエル議長はFOMC後の会見で、「政策金利は今回の引き締め局面のピークに達したか、その近くにある」とし、「追加利上げの可能性は低いと考えるが、排除したくない」と述べたものの、今回、利下げについて議論したことを認めました。13日の金融市場では、2024年の利下げ観測が強まり、国債利回りが低下、株価は続伸し、ニューヨーク・ダウ工業株30種が史上最高値を更新したほか、S&P500、ナスダック総合の両指数も年初来高値を更新しました。また、円相場は1米ドル＝142円台に上昇しました。

インフレ率の鈍化ペースが足元で弱まる

米国のインフレ率は、モノの分野では大きく鈍化し、サービス分野でも鈍化が進んだものの、依然として高い水準にあるほか、足元で鈍化ペースが弱まりました。また、労働参加率が伸び、人手不足は緩和方向にあるものの、景気減速に向かうなかでも労働市場は底堅く推移しています。こうした状況を踏まえると、根強い賃金上昇圧力などを背景に、サービス分野を中心としたインフレ率の高止まりや再加速の可能性も考えられることから、FRBは、も

しの場合への備えとして追加利上げの可能性を排除していないのだとみられます。

市場の利下げ期待とFRBの見方の間に乖離

13日の米金利先物市場では、利下げが2024年3月にも始まる確率が70%台に上昇し、同年の利下げ幅は1.0ポイントを超えると想定されています。景気やインフレ率がFOMC参加者の想定方向に向かうとすれば、早晚、利下げが視野に入ってくるものの、現状では、市場での期待とFRBの見方の間には乖離が見受けられます。それがどのような形で埋まることになるのか、今後も、サービス分野を中心としたインフレ率のほか、労働需給や賃金上昇率、長期金利の水準など、幅広いデータが注目されます。

当面のFOMC開催予定(下段:議事要旨の公表日)

24年1月	2月	3月	4月	5月	6月
30～31	-	19～20	4/30～5/1	11～12	
(2/21)	-	(4/10)	(5/22)	(7/3)	

下線がある会合では、FOMC参加者の景気・金利見通しが公表される

注:23年12月12～13日のFOMCの議事要旨の公表は24年1月3日

FRBの発表などをもとに日興アセットマネジメントが作成

23年12月のFOMC参加者の見通し(中央値)

(単位:%)	23年	24年	25年	26年	長期
GDP成長率	2.1→2.6	1.5→1.4	1.8→1.8	1.8→1.9	1.8→1.8
失業率	3.8→3.8	4.1→4.1	4.1→4.1	4.0→4.1	4.0→4.1
物価上昇率*	3.7→3.2	2.6→2.4	2.3→2.2	2.0→2.0	-
政策金利**	5.6→5.4	5.1→4.6	3.9→3.6	2.9→2.9	2.5→2.5

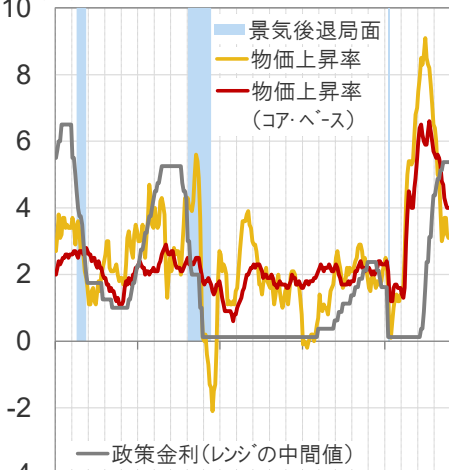
注:矢印の左側の値は23年9月時点の見通し

*コアPCE(個人消費支出)物価指数の前年比、**レンジの中間値

出所:FRB

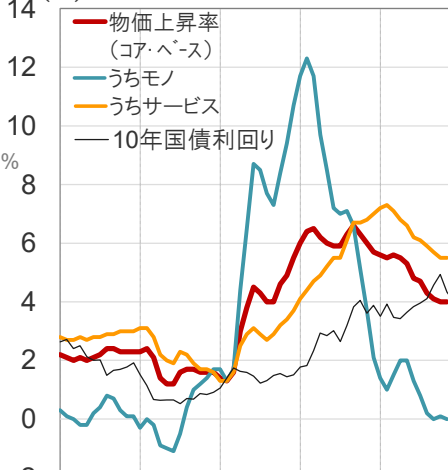
米国の消費者物価上昇率(前年同月比)と金利の推移

(%) (2000年1月～2023年11月*)



*物価は23年11月まで、金利・利回りの直近データは12月13日時点

(%) (2019年1月～2023年11月*)



19年 20年 21年 22年 23年

米労働市場の主要指標の推移

(2019年1月～2023年11月**)(%)



米労働統計局、全米経済研究所(NBER)、FRBなどの信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成